

小竹だより

練馬区立小竹小学校 校長 瀧嶋 克己



平成27年12月号

No. 489

体験を通して学習を深める

校長 瀧嶋 克己



【地引き網体験（5年生）】

朝夕の冷え込みが段々と厳しくなってきました。今年も残すところ後わずかになりました。

■岩井移動教室（5年生）

11月18日（水）～20日（金）の2泊3日で5年生が岩井移動教室に行ってきました。

5年生にとって初めての移動教室でした。まとまりがあり時間厳守で行動できました。話の聴き方も上手でした。主な体験を紹介します。

1日目の新日鐵住金 君津製鉄所は、厚さ24cmの鉄がわずか3mmの厚さになる工程を大きな工場で見学させていただきました。50m以上離れていても熱気が伝わってきました。

2日目は、地引き網体験を行いました。宿舎の方や漁師さんにコツを教えていただきながら網を引きます。網から逃げ出す魚やカモメが近付いてくる様子もよく分かりました。引いてみるとかなりの力が必要です。網の中には、「タコ」「イナダ」「サメ」などが入っていて最後にそれぞれの魚を紹介いただきました。「小さなサメ」には、一人一人が触れ、鮫肌を体験しました。夕食には「イナダ」の塩焼きをいただきました。

5年生の社会では、「我が国の産業」について学習します。体験を通して学習が深まりました。

■「通級指導学級」から「特別支援教室」へ

特別支援教育は、障害のあるすべての幼児、児童、生徒の教育の一層の充実を図るため、従来の特殊教育の対象の児童だけでなく、知的な遅れのない発達障害も含めた特別な支援を必要とする幼児、児童、生徒が在籍するすべての学校において行うものです。

平成14年に文部科学省が実施した調査では、小・中学校の通常の学級には、「落ち着きがない」「こだわりが強い」「コミュニケーションがうまくとれない」などの理由により、特別な支援を必要とする児童・生徒が約6%の割合で在籍している可能性があるとの結果を得ました。40人学級であれば2～3名の割合で在籍していることになります。

発達障害の児童・生徒の場合、集団生活や対人関係において生じる様々な困難が、本人の自尊感情の低下を招き、学校生活不適應などの深刻な二次障害を引き起こすことがあります。

現在は、在籍校で一部の授業を受けず「通級指導学級設置校」に通って、よりきめ細かな指導を受けることができます。練馬区では、平成28年度から30年度までの3年間で順次、「通級指導学級」から在籍校に「特別支援教室」を開設していきます。「子供が動く」から「教員が動く」へと変わります。本校は、平成29年度の開設となります。

本校では、特別支援コーディネーター（門園主幹養護教諭）を中心に校内委員会を設置し、スクールカウンセラーや心のふれあい相談員等も交え児童の支援方法を協議し、支援を行っています。ご相談があれば、お声かけください。